

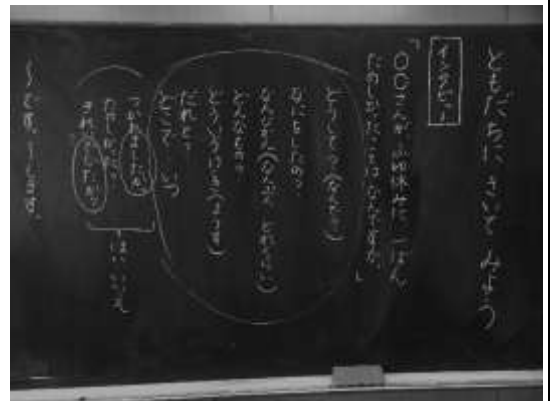
学年部会	テーマ「情報活用の実践力【あつめる】部会・1年」
実践内容	「相手からたくさんの情報を集めるための取り組み」
教科・単元名	1年 国語 「ともだちに、きいてみよう」

1. 実践活動のねらい

友達と話したり友達のことを知ったりするのが大好きな子ども達である。小グループの中で書いたものを発表しあったり、互いの作品を見合って感想を言い合ったりと、関わり合う活動を重ねてきた。また、朝の会では短いスピーチ活動を続けていて、人前ではっきり話すことには慣れて上手に話せるようになってきた。ただ、聞いている側が質問を思いつかなかったり、「はい・いいえ」で答えられる質問ばかりだったりすることが多く、もっと話の内容を詳しく尋ねられるようになって欲しいと考えた。本単元では、話し手と聞き手の双方にとって大事なことを落とさないように聞くということを中心に指導する。そこで、質問の観点として「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「どのくらい」「なぜ」などがあることを知り、その5W1Hを用いてインタビューをする活動を通して、話し手から知りたい情報を引き出し、たくさんの情報を集めることができるようにしたい。

2. 実践の内容・経過

話し手と聞き手の双方にとって大事なことを落とさずに聞き、尋ねて分かったことをみんなに紹介する活動を行う。1対1でインタビューをし合う活動は初めてなので、ほとんどの子が活動への意欲や興味をもって臨めると思われたが、実際やってみるとなると何を聞いていいかわからない子が多く質問できないことが予想された。そこで具体的にどんな質問の仕方がよいのかを授業の中で考え、「質問するときの言葉」をまとめてカードにし、インタビューに臨んだ。質問して聞き出した内容は、インタビューが終わってから簡単なメモにまとめ、話す順序を決めて、みんなの前でスピーチを行った。



■具体的な手立て

(1) 「知りたい」という意欲を高めるために

●毎日のスピーチ活動

朝の会の中でテーマに沿って短いスピーチ活動を続けている。大勢の前で話すことに慣れ、相手を意識して話すことをねらって取り組んでいるが、同時に、聞き手側が友達の話を関心をもって聞き、もっと聞きたいことや興味をひかれたことについて質問できるようにすることにも注意を向けさせてきた。話すことにはだいぶ慣れて、話し方もだんだん上手になってきたが、質問のバリエーションが広がらなかつたので、相手から具体的な内容を引き出す質問の仕方をした子を取り上げてほめ、価値づけるようにしてきた。

●課題の設定

身近なことをテーマとすることが話しやすさや聞きやすさにつながると考え、「冬休みに一番楽しかったこと」をインタビューしてそれをみんなに知らせるスピーチをする課題を設定した。休み前から楽しいことがたくさんあると期待していた冬休みで、季節の行事も多く、インタビューされる側としては話したいことが容易に決めら

れると考えた。またどの子も同じような体験をしていることが予想でき、インタビューする側は自分と重ね合わせて話を聞いたり、同じ所や違うところを発見しながら質問したりして、楽しみながらインタビューすることができる考えた。

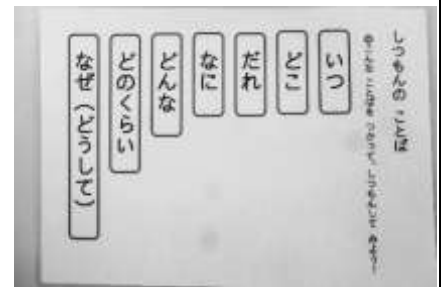
(2) 相手から知りたい情報を集めるために

●質問の観点を与える

具体的にどんなことを質問すればよいか、例として担任に子ども達が質問してみる中で考えさせた。始めに楽しかったことを一つ、簡単に担任が話し、もっと詳しく知りたいことを質問させた。子ども達からは「誰と行きましたか。」「どうして〇〇しましたか。」など、5W1Hにあたる言葉がいくつも出てきたので、それらをまとめて「しつものことば」とした。「楽しかったですか。」「おいしかったですか。」などの質問とは、答えが異なることを確認し、「しつものことば」をたくさん使って、相手から詳しく話を聞くように投げかけた。

また、黒板に掲示するだけではインタビューの時にスムーズに質問ができないと考えて、インタビュアーの手に「しつものことば」カードを用意し、それを見ながら相手の話からさらに聞き出したいことを選んで質問ができるようにした。

インタビューしたことをみんなに話して伝えるスピーチでは、スピーチを聞いた児童らも質問をした。その子達もまた、5W1Hで質問をすることになり、集中して聞くことにつながった。



●相手から聞き取ったことを他の人に伝える

今回の学習では、友達の話詳しく聞いた後、それをクラスのみみんなに話して伝える活動まで行った。自分のことではないので、やはり詳しく聞かないと紹介できないため、相手の話で分からなかったところや自分が知りたいと思うことを進んで質問する姿が見られた。聞き取ったことを基に話す練習をして初めて、聞き足りなかったことに気づく児童もいたため、今回は追加で質問することも許可した。



3. 考察・成果や課題

相手に対してどんな質問の仕方がよいかを考える時間には、スピーチ活動の中で価値付けしてきた質問の言葉がたくさん出てきた。5W1H がほとんど全部出てきたので、「しつものことば」として学習の中で児童の言葉でまとめることができた。インタビューの時にはそれをカードで持たせたことが、話すことに苦手意識のある児童にも自信をもって質問することができる手立てとなって、たくさん質問しようという意欲付けにつながり、「いっぱい質問できた。」「たくさん聞いて楽しかった。」などの声が多く聞かれた。自分がたくさん質問することができたという達成感と友達のことを知ることができたという楽しさもあり、インタビューという活動が楽しいもの、いいものとして子どもの中に位置づけられたと思われる。もともと、語彙の少なさや家庭や友達との会話の貧弱さも実態としてあり、今回の活動で、質問することで会話につながる楽しさも味わうことができた。今後の話す・聞く活動への取り組みがさらに意欲的になり、力がついていくことを期待したい。

5W1Hで聞くことは、話すこと・聞くことだけでなく、書くことにも通じる活動である。文章を書くときに「何を書いたらいいかわからない。」とか「書くことがない。」のように言う児童が多い中、今後の書く活動にも今回の学習を生かしていきたい。